

## 高知大学の理念と目的（神山正弘 修正新案）

平成13年6月6日 高知大学理念・目的検討委員会

### はじめに

いま世界と日本の人々の産業や文化のありようが大きく変化しようとしています。この中で、新しい知識社会を構築することが課題となっています。そのために、知識を創造・共有し、新しい知識社会を担う主体を育てる大学の役割はますます重要になっています。高知大学は、昭和24（1949）年、地域社会の熱い要求と日本社会の民主化・高度化という歴史的要請のもとに発足しました。こうした経緯を踏まえ、本学は地方にある国立総合大学として、地域の高等教育機関の中核を担い、日本の学術研究・文化の振興と高等教育機会の拡大に貢献しなければなりません。

高知大学は、自由と開拓心に富み、未知の世界に果敢に挑戦する精神的風土に立脚し、人間性と社会性にあふれた知の共同体として発展しなければなりません。

### 高知大学の五大目的

#### 一 創造性と豊かな人格—自分軸の育つ教育の充実—

高知大学は、広範な教養と高度な専門知識に裏づけられた創造的探究心と豊かな人間性を培い、世界の健全な発展に積極的に貢献する人材を育成します。人文、社会、自然の諸科学研究のそろった総合大学の利点を生かした豊かな教育課程の下で、すべての学生が自己の中心軸(自分軸)を形成できる履修環境を整えます。地域社会の文化や精神的風土を生かし、普遍的で個性豊かな人格の完成を促します。

学部教育では、一定の専門性に裏付けられた4年一貫の総合的教養教育の実現をめざし、大学院教育では、高度専門職業人の養成を目的とします。

#### 二 共同による知識創造—ローカルからグローバルへ発信する研究をめざして—

諸科学の基礎と応用について、学際協力と国際協力のもとに、創造的独創的研究を行い、学術文化の進展に寄与します。人文、社会、自然の諸科学研究を総合的に推進し、社会の文化や技術の発展と学術・科学の発展のための基礎的研究を推進します。さらに、地域の特性を生かして、水・陸・海洋の立体的総合的研究を進め、世界に発信します。また、地域社会に混在する課題を解明し、地域のニーズにあった研究を展開し、豊かな地域社会の創造を目指します。

#### 三 地域・国際貢献—地域と共に歩む「おらんくの大学」—

教育研究の成果を通して、世界の文化と人類福祉の向上に貢献します。また、地域社会の教育文化の育成に努めます。学問研究の成果は人類共有の資産です。本学は、地域社会に不可欠の諸科学・文化・学術研究に携わる知的資産として、高知の産業や生活、文化や教

育の質的向上のための課題を探り、解決方策を開発し地域社会の各層と連携して、21世紀の地域社会づくりに貢献します。教育活動においても地域社会は学生教育の場であると同時に学生の育つ不可欠の環境です。

地域にある大学として、大学の研究・教育・運営のすべての面において、地域連携を強めることは大学の個性化の不可欠の構成要素となります。

#### 四 知の共同体として活力あふれる大学

大学の活力は、学生と教職員の共同から生まれます。学生参加の開かれた大学運営とともに、地域社会に存在感のある大学づくりをめざします。そのために、大学と地域社会の各団体・個人との連携を強化します。学生の自主的な学習活動を援助し、感性と知性の融合された、学び・交流のできる知の共同体とします。透明性のある開かれた大学づくりを進め、地域や世界に開かれた総合大学となります。自己点検評価・改革体制を作り上げ、教員人事制度および教育研究体制の見直しを進めるとともに、地域内大学間連携の中心を担います。

#### 五 未来を切り拓くため不断の構造改革を進める大学

世界的レベルでの競争の激化、産業構造の変化、技術革新の進行、メガ・コンペティション時代の到来に対応するよう大学は前進を続け、常に革新を標榜する積極的で、責任感、倫理感をもつ新しい世代の担い手を養成することに先手を打ちながら大学改革に努めます。

### 高知大学の中長期目標と課題（案）

#### I 創造性と豊かな人格—自分軸の育つ教育をめざして—

本学は、4年間の学習を通して、学生が自己実現を図れるよう、学部横断の教養教育および専門教育を実施します。種々の分野の関連が基本となるこれからの時代を創造する人材として、十分な基礎学力の上に立ち、自己の専門以外の分野にも通じた人材の養成を図ります。

このような人材養成のための教育は、考える術を教えるべきで、考えさせる教育を進めます。学生は、「考えるとは何か」を自ら習得しなければなりません。これまでのトーク・アンド・チョークの「教えるシステム、知識伝授型」から「学ぶシステム、創造性開発型」、「問題発見・解決型カリキュラム」へ転換し、教員は「創造的独創的活動と知識習得の悦びを学生に喚起させること」が最高の任務であることを心しなければなりません。

総合大学として、多様な分野の研究者・専門家を擁する利点を発揮して、カリキュラム、教育方法の刷新を図り、双方向型の教育活動を豊かに展開します。教育における国際交流を一段と進め、外国人留学生の受け入れ、在学生の派遣活動を推進します。

そのために、以下の課題を掲げそれらの実現を図ります。

- 1 多様な文化の学習、異分野の学習を通じて、柔軟で多様な創造力を持った人材を育成

します。

2 知的資産の一方的受容者から脱却し、自ら考え、組み立て、他者に伝えることのできる高度な思考力と発信力を持った新しいリーダーシップ能力を兼ね備えた人材を養成します。

3 学部学科単位のカリキュラムと共に、全学横断の多様な教育プログラムを作り上げ、学生の自由な選択を促します。

2 大学院教育を見直し、大学院研究科相互の連携を強化して、高度専門職業人に必要な知見と高度な技術・技能が習得できるように、教育課程・教育方法を改善します。

5 各種の資格取得・能力検定対応プログラムを整備します。

6 正規の授業を社会人に開放し、受講生の多様化とともに学びの場の活性化を図ります。また、地域住民参加型の生涯教育プログラムをつくりあげます。

7 これらの総合的な教育活動を担う教育スタッフには、各分野の研究に従事する一定群の研究者を必要としますがそれは同時に優れた教育者でなければなりません。このスタッフの下で、豊かな教養と高度の専門性を備えた職業人の育成が実現されると考えます。さらに、必要に応じて社会の第一線で活躍する人材を教育スタッフとして採用し、実地実習・国際的・地域的交流教育を強化します。

## II 共同による知識創造＝ローカルからグローバルへ発信する研究をめざして一

高度な学術研究を土台として高度で実践的な教育活動が実現できます。本学は、人文科学、社会科学、自然科学の基礎科学とともに、教育・発達科学、地域政策学、農学・水産学および防災諸科学などの応用研究を推進してきました。

これらは、それぞれの学問分野の萌芽的研究や基礎研究および応用開発研究として、総合大学が果たすべき役割であり、本学は各分野の研究者を擁していることから 21 世紀に必要な知のフロンティアを切り拓く力を持っています。

また、これらを基礎に、地方国立大学として、高知の山地、水域、海洋の循環系や生態系、民俗や文化の特徴を探る総合高知研究（新土佐学）を展開します。

新しい革新的技術を生み出したり、創造的な研究開発をするためには、極めて知的刺激の強い環境が必要です。逆に言えば、知的雰囲気がないとすれば創造的な発想、優れた研究開発は生まれません。

技術はそれのみで成熟するものではなく、そこには人間と科学が存在しなければなりません。すなわち、人間を視点の中心に置いて、現在の専門分野をより深く究めるとともに、隣接諸分野との連携を強めて新しい体系を探っていくことが大切です。

基礎研究および学生教育に必要な人材（ミニマムスタンダード）を標準的に確保するとともに、高度な応用研究については、全学の人材を集約し、施設資源の集中を図り、組織運営形態を工夫して研究の高度化、実質化を推進します。

<研究課題> 今考えられるいくつかの課題を列記し、学内審議の参考とします。

#### 1 学問を下支えし、新しい学問を生み出す基礎的萌芽的研究の推進

諸科学に分かれて研究を進め、新しい学問分野をひり開くともに、研究の方法の革新を図り、学問世界の発展の一翼を担います。

#### 2 地域的であると同時に世界的意義を有する研究、世界に伍する特化型プロジェクト研究の構築

(事例)

- ①水熱化学（熱水鉱床学、海底資源学）、
- ②海洋コア研究を核とする海洋高知の総合研究
- ③生命情報学
- ④地盤災害工学
- ⑤東南アジア・アフリカ・環太平洋地域環境科学研究

#### 3 地域社会の知的拠点として、地域に根ざした開発研究を進める。

(事例)

- ①地域（特性）の理解とその教育において県民の役に立つ総合高知（新土佐学）研究
- ② 海洋高知—その生き物と文化の研究
- ③ 農業社会システム学,高齢化社会研究,河川流域環境科学

#### 4 産官学連携研究

(事例)

- ①ポスト産業社会＝農業を基軸とする新しい社会システムの研究
- ②生涯発達の知見の開発研究と高齢化対策の総合研究
- ③地域型生活者の文化や生活スタイルの研究
- ④森林・流域環境の総合的保全・再生研究

<研究の企画推進体制の確立>

##### ①新研究組織の確立

これらの研究を推進するためには、現在の研究組織の見直しを進め、学内に新たな研究組織を構築する必要があります。

##### ②学外との連携

さらに産業界や行政機関等の第一線で活躍する人材を招聘する一方社会と学問に通じたコーディネーターが必要となります。

③人事システムを改革し、柔軟な人事配置を行い、研究の発展を人的に支えます。

④予算施設面における基盤整備を図り、外部資金の獲得、研究支援特別経費の計上等の措置をとります。

⑤研究の評価システムを確立し、研究の質的向上を図ります。

⑥これらを総合的に検討し、本学の研究の飛躍的強化のために「高知大学総合研究計画推進委員会」（仮称）を設置します。

### III 地域・国際貢献―地域と共に歩む「おらんくの大学」―

一県一国立大学原則のもとに設置された地方国立大学は、その立地する地方社会の産業や学術教育文化の振興に大きな役割を果たさなければなりません。これまでの地方国立大学は、地域に高等教育機会を提供し全国的に必要な人材の養成を主眼としてきました。その際、地域社会の人材養成の視点は弱く、また学術・科学の成果の還元や大学の地域帰属の視点が薄らぐ傾向がありました。

今後の地域と大学との関係は、「双方向性」を志向した交流が原則であり、大学と地元側がお互いの役割や機能を理解し、緊密なパートナーシップを築き上げていかなければなりません。

高知大学は、「知の伝承と創造(教育と研究)」に加えて、大学の第三の機能としての地域との連携により、地域が持つ教育研究資源を大学教育の中に有機的に取り込み、地域と共に、諸々の情報や文物の創成に発展させなければなりません。そして地域との産官学共同体体制を作り上げ、学問の創造的・自律的な将来展開への道筋を自ら創ることや学問の基礎的な展開と先端的な成果を体系的に学びとる「生涯学習システム」を大学の基本的機能の中に組み入れる必要があります。

そのために、地方国立大学として、地域社会の知的データの集積や生涯学習の場として大学の開放・連携事業を活発に推進します。地域にある研究機関及び企業・団体・個人との共同研究を推進します。

本学では、地域共同研究センター（平成 年設置）、生涯学習教育研究センター（平成 年設置）が全学的な産学・官学・民学連携の取り組みを強化する本学の中心機関である。この他に、学部付属の諸センターもこの方向を強化しつつある。これらの諸センター・機関の取り組みを集約し、さらに強化するためには、以下の事項について具体化する必要があります。

#### 1 研究活動における地域連携

総合高知（新土佐学）研究の推進、21世紀地域振興研究プロジェクトの遂行  
地域との産官学共同体体制の構築のために地域共同研究センターを本学の地域連携  
研究推進の核として強化します。四国 TLO の構成機関として、特許等の技術移転  
を拡大します。

#### 2 教育活動における地域連携

インターンシップ、教育実習  
学生ボランティア活動、企業との教育連携  
スポーツ・芸術活動

#### 3 地域の生涯学習機関としての整備充実

生涯学習型キャンパスの創造

地域の情報化支援、

生涯学習教育研究センターを中心に、企画段階から地域の市民・団体・機関と共同します。

地域の専門職者の知識・技術・資質向上のための教育活動を展開します。

文化・スポーツ・芸術の振興を図ります。

#### 4 大学運営における地域連携

エコキャンパス化の推進、大学の開放

高校教育との連携

AO入試の実現

#### 5 地域連携・協力機構（仮称）の確立

### IV 知の共同体として活力あふれる大学をめざして

大学は、世界の平和と人類の福祉へ貢献する知的資産として、また若い世代の知的・人間的自立を助成し、社会の持続を支える機関として大きな役割を果たすことが求められています。

地方国立大学は、公費で維持され、その成果は公共の資産として蓄積されます。また学生の教育は、学問の成果を伝えるとともに、学生自身の学習を展開させるものでなりません。こうした役割と機能は、設置形態の変更如何にかかわらず本学が堅持すべき役割です。大学の役割と機能を発揮するためには、以下の取り組みが必要となります。

#### 1 学生教職員の共同による大学運営の確立

大学がまず研究機関として各研究者の「共同による創造」にあたる必要がある。個人研究のみならず共同研究を大学組織を土台に展開する。大学は教育機関として、教育の企画・実施・評価において学生の参加を実現し、双方向の充実した教育を実現しなければなりません。

#### 3 大学の情報公開

大学の研究・教育の情報は原則的に公開とし、広く社会の共有としなければなりません。

#### 4 大学運営における地域連携

大学は公共の資産として、国をはじめとする公費に支えられます。その意味で、公費に見合う説明責任を有します。それと共に、大学の担う公共性は地域社会からの不断の検証が必要です。

#### 4 自律的大学運営

学部、研究科の枠を超えて全学的視野で責任を負う組織運営体制を確立し、教育研究の個性化、高度化をめざします。

#### 5 不断の自己改革を進めるための自己点検・評価および改革システムの構築

## V 構造改革を進め、個性の輝く大学をめざして

### 1 地域化

世界的な視点から地域に根ざした、創造的で、不断に革新を追求する社会性を持った創造的・大学のづくりを主体的に進める。

高知大学は、教育・研究・運営のすべての相において、地域社会と連携した取り組みを進めます。大学の自律性は、地域社会への依存と自立のバランスの中から生まれます。大学の生み出す価値と活力は、地域社会に還元され、地域社会の文化と生活はまた大学の活力を支えます。

### 2 情報化

「知」の創造や伝達の方法が大きく変化しつつあり、国境を越えたあらゆる活動の増加と拡大をもたらしている。グローバル化に対応した高等教育システムの構築を目指して、すべての枠を超えた教育プログラムの開発などをはじめとするさまざまな新機軸を検討する必要があります。

これからの高知大学が日本および国際社会で活躍するためには、国際的通用性・互換性を重視し、「地域に生き、世界に通じる文化と科学の創造」、「それを担う人材の育成」、「知的空間の提供」が求められ、地域拠点大学および学際的基幹大学として、人間を中心に据えた教育と研究を通して、自然との調和に基づく人類の福祉と文化の向上に努め、地域社会と世界の未来を開拓しなければならない。

そのために、人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し、現代の諸課題に応え、人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備充実させ、世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し、高度で革新的な教育活動を推進します。

### 3 国際化

高等教育制度および教育研究水準の両面にわたって、国際的な通用性、共通性の向上と国際競争力の強化をめざした改革を進めることが求められている。社会・経済の変化に対応した高度で多様な教育・研究の展開に立って改革を進めることにより、本学は世界に開かれた高等教育機関として、その社会的責任を果たしていく必要があります。

社会、経済、文化の地球規模での交流が進み、国際的な協調・共生さらには競争の関係が増大する時代において、大学が世界に開かれた高等教育機関として期待される役割を果たすためには、学問の高度化、グローバル化、複合化等に対応する組織の構築が常に求められているのです。

### 4 人間化

大学に課せられた使命は、従来ともすればないがしろにしてきた「心」の働き、「知」の働きをも学問の分野に取り込むことによって、人間を視点の中心に置いた専門分野をより深く

究めるとともに、隣接諸分野との連携を強めて常に新しい体系を探っていくことです。

おわりに

高知大学は、発足後 50 年を経過しました。この間に輩出した卒業生は 2 万 8 千名を超え、今各界で活躍しています。地域の特性を生かした農業の技術革新、地震や災害のメカニズムの研究、海洋の構造や生物資源の研究など、高知大学は地域社会にとってなくてはならない知的資産となっています。

大学の活力は地域社会の活力の源泉であり、また逆に地域社会の活力は大学の活力の源泉でもあるでしょう。21 世紀の地方の時代に地方の大学が貢献できる領域は無限に存在します。

高知大学の教育研究における個性は地域社会の個性抜きには構築できません。ローカルからグローバルに発信する個性の輝く大学として、本学は自己改革の営為を積み重ねます。